

授業科目名	いまを生きるための倫理学 ——応用倫理学入門	担当教員	丸橋 裕
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年次第3クォーター		
講義内容	倫理学とは、人と人が対等な交わりを通してより善く生きるための哲学です。本講義の目的は、西洋哲学の伝統のなかで緻密に形成されてきた主要な倫理学説を可能なかぎりテキストに即して概観したうえで、現代社会のさまざまな場面に生じる応用倫理学の諸問題のなかから、自分自身にとって「問うに値する問い」を発見し、その解決への道を他者との対話を通じて探ることによって、自らがより善く生きるための思考力を養うことにあります。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重要な倫理学説について簡潔に説明することができる。 2. この世界の片隅に自分自身が「より善く生きること」とはどのようなことなのかを倫理的に説明できる。 3. 応用倫理学の諸問題のなかから、自分自身にとって「問うに値する問い」を発見できる。 4. その問題を解決するための道筋を、他者との対話をつうじて、より深く、より楽しく考えるモラルを身につけることができる。 		
授業計画	<p>序 いまを生きるために「問うに値する問い」とは</p> <p>第Ⅰ部 倫理学の諸学説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然と精神への問い（初期ギリシアとソクラテス） 2 真の幸福とはなにか（プラトンとアリストテレス） 3 社会契約は可能か（ホッブズとヒューム） 4 真の自由とはなにか（ルソーとカント） 5 功利主義はどこまで正当化されるか（ベンサムとミル） <p>第Ⅱ部 応用倫理学の諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命と医療を問う——正義か、それともケアリングか 2 環境と科学技術を問う——核廃棄物を未来世代に押しつけてよいのか 3 情報とマスコミ・映像を問う——文化の多様性とグローバリゼーションはどう折り合いを付けるべきか 4 平和と国際関係を問う——藝術や文化によって平和を生み出すことは可能か 5 公共政策を問う——国家刑罰としての死刑は本来どうあるべきか 6 生と死、宗教を問う——現代社会において信仰の可能性はいかに切り拓かれるのか 7 性と結婚、家族を問う——ジェンダーと結婚はどうあるべきか 8 観光倫理を問う——観光／観「影」によっていかに異文化と対話するか 		
事前・事後学習	事前には、あらかじめ提示された資料を熟読して、そこに発見できる問題について熟考しておく。また事後には、講義や対話・討論を通じてえら		

	れた示唆にもとづいて、自らの問題についてさらに考察を深め、自らの考えをまとめる。
テキスト	永井均『倫理とは何か』（ちくま学芸文庫）
参考文献	盛永・松島・小出編『いまを生きるための倫理学』（丸善出版） 浅見・盛永編『教養としての応用倫理学』（丸善出版）
成績評価の基準	対話討論（15%）、ミニレポート（20%）、中間レポートないしプレゼンテーション（25%）、期末試験ないし最終レポート（40%）などによって総合評価します。
履修上の注意 履修要件	グループによる対話討論やプレゼンテーションを積極的に導入します。プレゼンテーションのグループ分けを第2講目に行いますので、履修希望者は可能なかぎり出席してください。定員を超過した場合は、第2講までの出席者を優先します。
備考欄	第II部の各章は担当グループによるプレゼンテーションが中心となります。各グループは一週間前までに発表原稿を作成し、オフィスアワーに教員と事前の打ち合わせを行う必要があります。